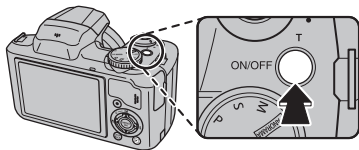


SR*AUTO*（シーンぴったりナビ）で撮影する

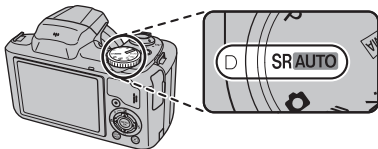
ここでは、撮影の基本的な流れを説明します。
SR*AUTO* 以外の撮影モードに切り換える方法については、27 ページを参照してください。

カメラの電源をオンにする

- 1 カメラの電源をオンにします。
ON/OFF（電源）ボタンを押します。



- 2 モードダイヤルを SR*AUTO* に合わせます。



SR*AUTO* について

被写体にカメラを向けるだけで、カメラが自動で撮影シーンを認識し、最適な設定にします。カメラが最適なシーンを認識すると、画面にシーンアイコンが表示されます。



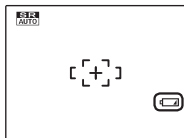
人物を認識した場合



| シーン | 内容 |
|-----|--------------------------------|
| | 人物：人物を認識した場合には表示されます。 |
| | 風景：建物や山などの風景を認識した場合には表示されます。 |
| | 夜景：夜景を認識した場合には表示されます。 |
| | マクロ：近接撮影を認識した場合には表示されます。 |
| | 夜景&人物：夜景撮影時、人物を認識した場合には表示されます。 |
| | 逆光&人物：逆光撮影時、人物を認識した場合には表示されます。 |

メモ







シーンを認識しなかった場合は、 **AUTO** で撮影されます。

- 3** 電池残量を確認します。
電池残量を画面で確認し
ます。



| 表示 | 意味 |
|---|--------------------------------------|
| 表示なし | 電池の残量は十分にあります。 |
|  | 電池の残量が不足しています。新しい電池を準備してください。 |
|  | 電池残量がありません。カメラの電源をオフにして、電池を交換してください。 |

← チェック

- 温度が低いところで使用したとき、電池の特性上、電池残量不足の表示 (、) が早く出る場合があります。電池をポケットなどで温めて使用することをおすすめします。
- 電池の消耗の度合いや電池の種類によっては、電池残量表示が出ないでカメラの電源が切れることがあります。一度、電池切れになった電池を再使用した場合にこの現象が起こりやすくなります。
- モードによっては  から  になるまでの時間が短くなることがあります。
- カメラの動作状態により消費電力は大きく変化します。このため、電池の使用中に撮影モードから再生モードへ切り換えた場合に、 が点灯せず、 が点灯し、動作が終了する場合があります。

カメラを構えて、構図を決める

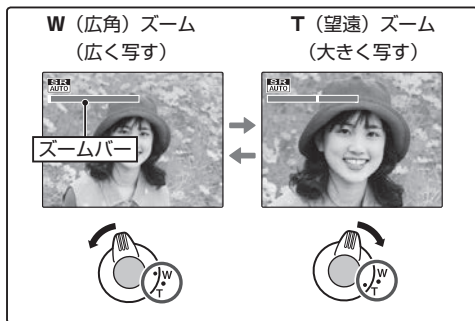
- 1** カメラを構えます。
- 手ブレを防ぐため、脇をしめ、カメラを両手でしっかりと持ってください。
 - レンズやフラッシュに指などがかかると、ピンぼけや暗い写真になることがあります。ご注意ください。



- 2** 構図を決めます。
ズームレバーを回して、構図を調整します。

ズームを使う

ズームを使うと、被写体の大きさを変えることができます。広い範囲を写したいときはズームレバーを **W** (広角) 側へ、被写体を大きく写したいときは **T** (望遠) 側へ回してください。ズーム操作中は、画面にズームバーと倍率が表示されます。



フレーミングガイドを使う

撮影時に **DISP/BACK** ボタンを押すごとに、画面の表示が次のように切り換わります。

「情報表示あり」、「情報表示なし」、「ベストフレーミング」、「HD フレーミング」、「ヒストグラム」

- **ベストフレーミング**: ベストフレーミングを使うと、縦横にガイド線が表示され、構図が決めやすくなります。
- **HD フレーミング**: 画像が 16:9 になるようなガイド線が表示され、HD 画像の構図が決めやすくなります。

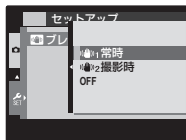
注意

被写体を画面の中央に配置しないときは、必ず AF/AE ロック (→ 40 ページ) を使ってください。AF/AE ロックをしないと、被写体にピントが合わないことがあります。

● ● ● プレ防止モード

このカメラでは、暗い場所でも手ブレや被写体ブレを軽減します。

セットアップメニューの **プレ防止モード** で、**常時** または **撮影時 OFF** を選択できます (→ 96 ページ)。



☛ チェック

三脚使用時は **プレ防止モード** を **OFF** にすることをおすすめします。

⚠ 注意

シーンや撮影方法によっては、ブレが残ることがあります。

ピントを合わせて撮影する

- 1 シャッターボタンを半押しして、被写体にピントを合わせます。



ピントが合ったとき

ピピッと音が鳴り、インジケータランプが緑色に点灯します。

ピントが合わないとき

AF フレームが赤色に点灯し、**!AF** が画面に表示され、インジケータランプが緑色点滅します。構図を変えるか、AF/AE ロックを使ってください (→ 40 ページ)。

☛ チェック

シャッターボタンを半押しすると、レンズ動作音が発生します。

- 2** シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込みます (全押しします)。
写真が撮影されます。



☛ チェック

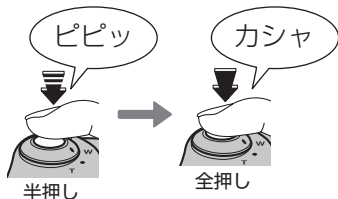
SRAUTO では、常にピント合わせを続けるため、次のような現象が起こります

- レンズの駆動音がします。
- 電池の消耗が早くなります。電池残量にご注意ください。

● シャッターボタンの半押しと全押しについて

シャッターボタンを軽く押して、そのまま指を動かさないことを「シャッターボタンを半押しする」といいます。半押しすると、ピントと明るさが決まります。

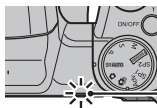
指をはなさずにさらに深く押し込む (全押しする) と、写真を撮影できます。シャッターボタンを押すときは、カメラが動いて手ブレが起きないように、静かに押し込んでください。



☛ チェック

- 暗い場所では、フラッシュを使って撮影 (→ 43 ページ) できます。
- 暗い被写体のピントを合わせやすくするために AF 補助光 (→ 41 ページ) が発光する場合があります。

● インジケータースランプ



インジケータースランプ

インジケータースランプの色や点灯 / 点滅で、カメラの状態がわかります。

| インジケータースランプ | カメラの状態 |
|-------------|---------------------------------|
| 緑色点灯 | 被写体にピントが合っています。 |
| 緑色点滅 | 手ブレ警告、AF 警告、AE 警告です (撮影できます)。 |
| 緑と橙色の交互点滅 | メモリーカードに画像を記録しています (続けて撮影できます)。 |
| 橙色点灯 | メモリーカードに画像を記録しています (撮影できません)。 |
| 橙色点滅 | フラッシュ充電中です (フラッシュは発光しません)。 |
| 赤色点滅 | 画像記録異常、またはレンズ異常です。 |

📌 メモ：警告表示について

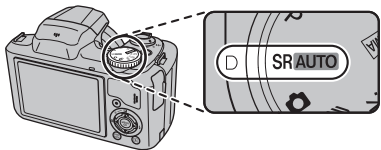
画面にも、警告表示が表示されます。詳細は121ページを参照してください。



モードを切り換えて撮影する

モードダイヤルで撮影モードを切り換える

撮影モードを切り換えることで、状況（シーン）に適した設定を行うことができます。モードを切り換えるには、モードダイヤルを回して、使用するモードアイコンを指標に合わせます。



SR AUTO シーンぴったりナビ

被写体にカメラを向けるだけで、カメラが自動で撮影シーンを認識し、最適な設定にします。操作の流れについては、「**SR AUTO**（シーンぴったりナビ）で撮影する」（→ 20 ページ）を参照してください。

オート

カメラまかせの簡単操作できれいな写真を撮影できます。ほとんどの状況に適しています。